令和６年度九州大学法科大学院入学者選抜試験

試験問題

論文試験

（注意事項）

１　本試験問題は指示があるまで開かないこと。

２　本試験問題は（この表紙と白紙を除き）１５頁、解答紙は５枚である。「始め」の合図があったら、それぞれ確認し、解答紙のすべてに受験番号を記入すること。

３　解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。

４　論文試験の筆記具は、Ｂ又はＨＢの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は採点しないことがある。

５　ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用紙に限り許可する。

６　採点は 45 点（30%）を最低合格ラインとして設定する。

以下の文章を読み、問１から４に答えよ。

（出典：茂木健一郎著・クオリアと人工意識〔講談社、2020〕。出題に際し、一部改めた）

【問１】（20 点）

下線部(1)のように筆者が述べる理由を、「知性」と「機械が置き換えた労働」との異同、ならびに、人工知能の展開が予想される領域に触れつつ、200 字以内で答えなさい。

【問２】（40 点）

下線部(2)について、以下の小問(1)(2)に答えなさい。

(1)　人工知能が「ソヴァリン型」へと進むにつれて、人々はどのような不安を抱くと筆者は考えているか、150 字以内で答えなさい。

(2)　筆者が下線部(2)のように主張する理由を、「オラクル型」の人工知能が得意とする領域と「ソヴァリン型」が得意とする領域との異同に着目しつつ、350 字以内で答えなさい。

【問３】（30 点）

下線部(3)にも言及される「知性と意識の関係」について考えることは、なぜ筆者にとって「興味深い」のか、その理由を 300 字以内で答えなさい。

【問４】（60 点）

下線部(4)について、以下の小問(1)(2)に答えなさい。

(1)　万能チューリングマシンが意識を生み出すことができるとする意見に対し、筆者は賛成するか、あるいは、反対するか。意識及び理解と万能チューリングマシンとの関係、ならびに脳と身体との関係に留意しつつ、350 字以内で予想しなさい。

(2)　現在の人工知能研究の欠陥、ならびに、今後の人工知能研究の進むべき方向についての筆者の考えを、問題文を手掛かりに、300 字以内で推測しなさい。